

天璋院様御麻疹諸留帳について

戸塚 武比古

はじめに

天璋院（一八三六—一八八三）は十三代將軍家定の夫人である。家定は夫人運の悪い人で、既に二人の夫人に先立たれていた。島津斉彬は薩藩の支藩島津忠剛の女を養い、更に先例に従ってこれを近衛忠熙の養女として家定に嫁がせた。三代前の重豪の女が將軍家斉の御台であり、その勢力が徳川大奥に幾分か残っており、かつ、斉彬は閨老阿部正弘と親密な間柄であったために、この奥入が実現したのであろう。安政五年家定の没後御台は天璋院と称した。

文久二年秋、麻疹は大奥に侵入して、和宮・公方（家茂）が相次いで罹患し、一ト月後に天璋院（二十七歳）も同じ病に罹った。「天璋院様御麻疹諸留帳」は戸塚静海自筆のもので、与野市久保應助君の家に伝わっている。半紙を縦に二つ折にして更に袋折して綴じ合わせたもので、枚数は三十四枚、表紙には「天璋院様云々」の題書がある。その内容は天璋院の病状、奥医師の勤め書、投薬、各症状における食禁の品書等現在の病人についてのカルテに近いものの外、大奥女中への報告、表（閨老、御側衆等）との連絡、拝領の金品等である。このときの大奥の麻疹につい

ては、緒方洪庵の勤仕向日記（緒方富雄著『緒方洪庵』に収録）にも記述があるが、これは洪庵の奥医師としての勤め向一般が主であるのに対して、本留帳は天璋院の病についてのカルテを主としたもので、十一月八日天璋院の発症に筆を起こし、その床上げの前日の十二月二十七日に筆を擱いている。このときの大奥の麻疹の状況は、勤仕向日記と本留帳を綜合すると次のようになる。

文久二年

十月廿四日 和宮御麻疹治定、御匙 多紀永春院

同月廿五日 公方御麻疹治定、御匙 伊東長春院、御匙並 竹

内女同

十一月八日 天璋院風邪の症状

同月九日 公方御酒湯、表、和宮、天璋院より関係奥医師に

拝領金

同月同日 和宮御酒湯、表、和宮より関係奥医師に拝領金

同月十五日 天璋院御麻疹治定、奥医師勤方同書差出、御匙

大膳亮章庵、御匙並 戸塚静海 詰切、御鍼科吉

田秀貞。麻疹中御酒湯まで召上り宜敷き品書書上

同月廿三日 伊東長春院差扣

同月廿七日 天璋院御酒湯、表、天璋院より関係奥医師に拝領

金。御酒湯後勤方同書差出、御酒湯後召上り宜敷

き品書書上

同月廿八日 公方麻疹全快。関係奥医師に表より拝領金

十二月七日 麻疹治定より三十日後および五十日後から召上り

宜敷き品書上

同月十二日

伊東長春院差扣御免

同月十六日

奥医師昇進

法印

津輕良春院 大膳亮弘玄院

戸塚靜春院 竹内渭川院

法帳 緒方洪庵

同月二十七日

天璋院庄上

文久三年正月廿五日

伊東長春院奥医師御免小普請入となる。

天璋院様御麻疹諸留帳

文久二年壬戌

十一月八日

天璋院様御定式御診日に付、例刻章庵、静海、磐安、卜仙、祐益、秀貞拜診之処、今朝は御拭取にて御仕舞被_レ為_レ遊候後、卒に悪寒、無_レ程御熱発被_レ為_レ在、御脈微數、御頭痛、御食氣不_レ被_レ為_レ在、稍御白苔奉_レ拜見候。依_レ之御風邪に可_レ被_レ為_レ在申上、御薬解肌發表飲静海御調合奉_レ差上_レ候。此節柄に付、尚又夕刻拜診相願置候。御機嫌之旨、且又御風氣之趣、花岡殿・大崎殿江申述候。右御容体昨七日より少々御催被_レ為_レ在哉、七日御膳日御減少にて、朝四拾匁、御二度廿五匁、御三度は拾匁被_レ召上_レ候。然処今朝御拭取御仕舞も被_レ為_レ遊候事故、卒に右御症御発被_レ遊候事に奉_レ診候。

夕七時過章庵、静海再拜診之処、御脈浮數益、御熱発、御頭痛

強く、御咳嗽は格別不_レ被_レ為_レ在、御咽喉も御異状不_レ被_レ為_レ在候。御薬御前方。益御機嫌之旨、大崎殿・藤崎殿江申述候。

今日御膳目方 朝三拾五匁 御二度三拾五匁 御三度拾匁

今夕御発汗御程能被_レ為_レ人候。

御起章庵、日並静海見合泊、表使川岡江申述置候。

今日御小用五度 御大用一度

九日 六半時御目覚。兩人拜診御発汗被_レ為_レ在。昨日よりは御頭痛薄く被_レ思召_レ候。

夕長春院、章庵、静海拜診。御熱氣強く、御発汗被_レ為_レ在、御面部、御頬江御皮下に御発し物少し奉_レ拜見候外、御異状不_レ奉_レ診。御薬御前方調上。御機嫌之旨、且又御皮下に御吹出物_レ奉_レ拜見候に付、麻疹に被_レ為_レ成候哉も難_レ計旨、萬里小路殿へ申上候。

今日御膳目 朝おかゆ四拾匁 御二度同廿五匁 御三度廿五匁
但昨八日より御経事に被_レ為_レ成候由、御中年寄富野申聞候。
但御小用五度 御大用一度被_レ為_レ在候。

今日は御表拜領物有_レ之、回動井上河内守殿稻葉兵部少軸殿へ廻り一寸帰宅、又々出宮、見合泊り
但し御前御礼御延々と相成、御用掛衆見掛り御礼申上候。泊方御部屋へ御礼罷出候。

十日 四ツ時前奉_レ拜診候。御容体御同様、御薬御前方にて、御機嫌之旨、花岡殿、藤崎殿江申上候。四ツ時過より一寸帰宅、七時頃又々出宮 今日も見合泊り

夕刻長春院、章庵、静海拜診、御熱氣今朝よりは御強く、御頭

痛、御咳嗽も被_レ為_レ在。御咽喉少々御痛も被_レ為_レ在候。御面部、御頬廻り、御赤味み拝見仕候。御皮下御発し物、益顕然と被_レ為_レ入候。益御機嫌之旨、飛鳥井殿御局に申上候。

今日御膳目 朝おかゆ廿五匁 御二度目拾五匁 御三度目三拾匁

御小用五度

今夕より弗利兒露一弓^{オシ}、珉瑛列利精十滴加人、御兼用に調上、但三度に御用、今夜中之御分量也、一昼夜に二弓之分量 今日も兩人見合泊り

十一日 朝五時御目覚拝診、御同様之内弥御発疹赤色御足迄拝見仕候。

夕刻長春院、永春院、章庵、静海拝診。御同様之内御熱氣弥御強く、御咳嗽、御咽喉も被_レ為_レ在候。御藥転方、清凉発汗剂差上。御不大便に付、解毒丸一貼掛目八分調上、五半時直に御用被_レ遊候。御渴、御咽喉痛、且又御咳嗽之御手当、亞利比重護藥調上仕置候。

今夜四時拝診。御腹痛被_レ為_レ在候処、八時過御歇便御通に付、今夕は御頭痛強く被_レ為_レ在候処。御通事後御快寝被_レ為_レ在候。今夕も兩人見合泊り

御膳目 朝おかゆ式拾匁 御二度⁽²⁾お湯之下拾八匁 御三度目拾八匁

今日は御小用四度 御大便二度

御汗は日夜御程能始終被_レ為_レ入候。

十二日 朝拝診之処、昨夜御大便御快通故か、御熱氣薄く、御

頭痛御軽く被_レ思召_レ候旨。御沙汰有_レ之候。御発疹益御赤色にて御増被_レ為_レ在候。

夕刻長春院、三伯、章庵、静海拝診。御同様之内御熱氣強く、御咽喉、御咳嗽御同様被_レ為_レ在候。

夜四時尚又拝診御願候処、御頭痛御軽く被_レ思召_レ候。

但今朝表使藤漱江章庵掛合、御麻疹御模様之義、御用掛衆へ今朝可_レ申上_レ奉存候、御大奥御都合宜候哉問合候処、何も差支無_レ之旨に付、御用人青山讃岐守并鈴木安房守江掛合之上、御表へ相廻り、御用掛坪内伊豆守殿、村松出羽守殿江御麻疹之御模様之旨申上、右申立済に付、惣與御医師惣診、御用人より達し出る。

今日御膳目 朝おゆ之下拾匁程

御機嫌、朝は大崎殿、梅溪殿、夕は飛鳥井殿、藤崎殿

今夕蕎麥湯召上り度旨御沙汰 御免奉_レ願候。

今日御用人達書、法印兩人、漢科八人、五人、御掛り四人出。

十三日 今朝拝診之者、三伯、章庵、静海、貫齋、玄同、磐安、宗達、右五人之者惣診出也。今朝御面部御発起御十分、御手足も紅色被_レ為_レ増候。御咳嗽、御咽喉も被_レ為_レ入候。御大便は通じ少々。兎角御上部庄迫之御模様奉_レ診候に付、再下剂丸子解毒丸八分奉_レ調上候。九時前御用被_レ遊候。朝御機嫌之旨、萬里小路、藤崎殿江申上候。

夕七ツ時拝診前御滯便御沢山に通利被_レ為_レ在候而拝診。御氣分御開被_レ遊候旨、御沙汰被_レ為_レ在候由、御中年寄歌川申聞候。夕診長春院、玄意、玄瑠、章庵、静海、洞海、洪庵、玄昌、右六人之者惣診之者也。益御機嫌、御順症模様之旨、萬里小路殿、藤崎殿

江申上候。御菓前方

夜四時過御寢所拜診、支璫、章庵、静海罷出申候。御通じ有之。御氣重之所、御氣分御宜敷旨、歌川申達候。

今日御膳目 朝おかげ廿五匁 御二度目拾匁 御三度目拾匁

御小用五度 御大用五度 何れ御軟便御相應、是は御丸子被召上二候故と奉存候。

十四日 今朝御目覚診、長春院、玄璫、章庵、静海、澄庵、快庵、卜仙、玄貞、甫周、秀貞 内六人惣診之者也。拜診前御中年寄富の申述候。昨夜御大之御通じ有之候已來、今晝迄、四度御少々宛御水瀉被為在、御氣分御宜敷被思召一候旨被申聞候。御面部奉拜見候処、大に御地腫も御よろしく奉診候。御菓今日より加減包撰発表表飲御転方調上仕候。御機嫌之旨、花園殿お局江申上候。

夕永春院、章庵、静海、卜仙、宗達御同篇之内、兔角御咽痛にて御食物御六ヶ敷被思召二候。

今日御膳目 朝お湯之下八匁 御二度おもゆ おあざ物一ツ

夜四時前、酸味之御留飲少々御戻し、御引統御痰飲御相應に御吐出被為在候。其後兔角御心下御嘔雜之御氣味合に付、薄荷油入瑪屈渾散御調合、一貼直に召上り候様差出、引統拜診願、章庵、静海、卜仙御診、全く御留飲御溜り之旨申上候。尚又無程御一貼御上り奉願候。御心下御さすり上候て宜敷候は、静海おさすり上候様、御中年寄歌川被申候に付、静海暫くおさすり差上候。暫く過候、御心下少し御寛解に付、最早御宜敷旨御沙汰に付引取申候。章庵立会、機嫌之旨飛鳥井殿、藤崎殿へ申上候。其

後御うとうと御静まり、七時御かげ少の被召上、無程少し御寝、御発汗被為在候。

今日御小用□□、御大便□□、御吐式度

十五日 五時前拜診、章庵、静海、玄昌、甫周、宗達、御熱氣被為在、御脈も未だ御進、御舌苔も御同様、御発疹御赤色減少、御地腫も同様御減却、御心下御痞軟も御緩被為遊候。益御機嫌御順症之旨。飛鳥井殿、藤崎殿江申上候。但今朝御経血少々被為在候旨、御中年寄川岡被申聞候。其後四時頃、又々御經事御相應に被為入候旨。表使川岡申聞候。其後尚又九時過御中年寄歌川より被申聞候には、今日は御心下大に御緩。御かげ御風味能被召上。御氣分も御宜敷旨被申聞候。

今日弥御麻疹御治定之義、章庵、静海御談部屋へ罷出、御用掛坪内伊豆守へ申上候。且又御麻疹中勤方伺書、頭取播摩守へ差出置候。別に長春院見合泊願書も一同差出、伺之通相濟候。

勤方伺書

天璋院様御麻疹中勤方奉伺候

詰切

(御) 御匙匙 大膳亮章庵 戸塚静海

宍人ヅ、泊居代

(漢科) 漢科之者 蘭科之者

詰切

御鍼科

吉田秀貞

日々御診

(多) 多紀養春院 伊東長春院 多紀永春院

日々老人宛御診

（土生文昌
桂川甫周
本康宗達

日々御機嫌伺、折々御診、此外御雜科右之通に御座候

以上

十一月十五日

今日は御溜飲御残も被_レ為_レ在候に付。朝之内瑪屈涅散一貼。尚又御兼用相願候。御薬も御前方中、去沙列布、加健質安那、縮砂少許調上。今日より護謨漿御扣目に折々御用願置候。是又御中年寄歌川被_二相尋一候に付冷水、御匙に二ツ位御口中御乾燥に差上候て宜敷哉之旨。及弗利兒露御水菓冷飲にても宜敷哉之旨に付、御宜敷旨申述置候。

夕刻御診、長春院、章庵、静海、磐安、秀貞。益御心下御苦悶御緩、御かゆ等御風味少し宛御宜敷被_二召上三候由、御沙汰之旨、川岡申聞候。御熱氣も御減少、御舌上稍潤出候様奉_レ診候。御氣嫌之旨大崎殿、藤崎殿へ申上候。

御膳目 朝おあさ物老ツ、兩度 御二度十匁 御三度八匁
御小用五度 御大無_レ之

夜四時過拝診、章庵、静海、磐安、秀貞。益御諸症御寛解に奉_レ診候旨、大崎殿、藤崎殿江申上候。秀貞江御心下御按腹被_二仰付一、静海玄會、四半時引取申候。九時頃より御快寝、是迄に無_レ之御寝也。

十六日 朝五時前拝診、長春院、章庵、静海、玄同、宗達、秀貞。益御機嫌之旨、大崎殿、梅溪殿へ申上候。昨夜是迄に無_レ之

御快寝故、御氣分大に御宜敷、御熱氣御軽く、御発疹稍御消散に被_レ為_レ在候。拝診後 おかゆ御堅め之処、おあさ物御式ツ被_二召上三候。凡式拾匁程。御薬御苦く被_二思召一候旨、御中年寄花岡被_二申聞一候。今日より御薬転方、調胃解毒飲調上、今日より毎日三貼宛御用之義、御中寄花岡江申達置候。

調胃解毒飲方

芦根、撒尔列根、白朮、縮砂、茴香、弗利兒、加密尔列、甘草昨日御不大便に付、今日は四半頃解毒丸一貼、目方五分御用願置候。弗利兒露水是迄之通御用も相願置候。今日も御経血被_レ為_レ在候哉、御中年寄花岡江候処、極少し御小用之節ニ被_レ為_レ在候旨申聞候。

今朝四時、章庵表へ廻り、益御機嫌、御順症御容体、御用掛衆へ申上候。明日は静海罷出申上候積。其後は漢科、蘭科当番之者之老人相廻り、御容体申上候約束。

夕御診、永春院、章庵、静海、澄庵、洞海、秀貞、益御順症にて御熱氣も不_レ被_レ為_レ在、始て緩和之御脈夕刻奉_レ診候。御機嫌大崎殿、藤崎殿

今日御膳目 朝堅めのおかゆ廿匁 御二度目 御三度拾五匁
御小用四度 御大便無_レ之

夜四時拝診、益御順快にて御異状不_レ奉_レ診、御嗜眠に被_レ為_レ在。今夕は秀貞へおさすりも不_レ被_二仰付一候。

今日昼過より雨雪にて寒冷。

十七日 陰 六半時拝診、玄瑠、章庵、静海、澄庵、洞海、雄伯。益御快然ニ被_レ為_レ入。御発疹も大半御消散に被_レ為_レ成候。兎

角御大便に付、今日は朝之内解毒丸一貼御上り願置候。御中年寄富野より申上候。直に被_レ召上_二候。解毒丸目方七分也。御機嫌之旨、萬里小路殿御局へ申上候。

今日表へ静海廻り、御麻疹御腹痛にて御異状不_レ奉_レ診。且昨日は是迄に無_レ之。おかゆ御分量五拾五匁被_レ召上_二候義も申上候。坪内伊豆守殿迄□昨今御湯も不_レ被_レ為_レ在候に付。御水菜御迷惑之旨、御中年寄花岡申聞候。依_レ之今夕切弗利兒露御休薬に相成申候。但し御表御用掛衆御容体申上、頭取及御膳番江も同様に申置候事。

晝後八時過御大便御沢山、御軟かに御通被_レ為_レ在候。

是迄おかゆ、御湯之下被_レ召上_二候処、御飯柔らかに候得ば、御上候ても宜敷哉之旨、表使福田問合に付、御宜敷旨相答置候。且又密柑、九年母は如何可_レ有_レ之哉。被_レ相尋_二候間、少しは宜敷旨相答申候。漢家の方にては醋味之物三七日間は禁候由なれども、蘭家之流にては禁不_レ申候旨申述置候。尤被_レ召上_二候ても密柑壹ツ之半分位之由。

夕七半過拝診、長春院、章庵、静海、快庵、洪庵、秀貞、益御順症にて、御熱発も不_レ被_レ為_レ入候。御機嫌之旨、萬里小路お局江申上候。

夜四半時拝診、章庵、静海、快庵、洪庵、秀貞、益御順快、御異状不_レ被_レ為_レ在候。御機嫌萬里小路殿、藤崎殿江申上候。

今日御膳目 朝お湯之下三拾匁 御二度拾五匁 御三度拾五匁
御小用三度 御大用老度
十八日 晴 朝六半時過拝診。長春院、章庵、静海、快庵、甫

周、道安、秀貞、益御順症、更々御異状不_レ被_レ為_レ入候。御麻疹も御皮剝脱奉_レ拜見候。御機嫌花園殿、梅溪殿へ申上候。

今日は御表御用掛衆へ御容体申上、快庵四時相廻り申候。

但昨夕御前にて綿子老_ツ、御盃老_ツ添拝領、夕刻御診出之七人也。今朝宅へ相廻し申候。晝前鮮鯛一頭拝領、且又老女衆梅溪殿始より詰合奥医師中へ尺之重五重、菓子并料理之品被_レ下候。章庵一統之御礼申置候。皆々宅へ相廻し申候、詰合之者十三人也。

解毒丸日々一貼差上候に付二の丸へ申遣候所、御製法御用無_レ之、余計に御薬部屋へ差出候趣申越候間、御表へ廻り、御薬部屋より掛目拾匁掛分持参いたし候。御膳番三郎左衛門へ断、洞海立会。今日分迄解毒丸有之候間、明朝御調合之積。

夕七半時前拝診、長春院、玄意、章庵、静海、玄貞、秀貞六人、益御機嫌之旨、花園殿、藤崎殿江申上候。

今日御膳目 朝三拾匁、今日より御本飯和らかめ 御二度拾五匁五分 御三度三拾匁

御小用四度

夜四半時前拝診、益御平和、何之齋も不_レ被_レ為_レ入候。長春院、玄意、章庵、静海、玄貞、秀貞也。御機嫌花園殿、藤崎殿。

四半過頃解毒丸一貼被_レ召上_二候。夜中御快寝。

十九日 晴 今朝御目覚後御軟便一行御相応御快通。

六ツ半時拝診、長春院、玄意、章庵、静海、玄貞、秀貞、益御順快に奉_レ診候。御機嫌飛鳥井殿、藤崎殿。

五時御本飯三拾五匁被_レ召上_二、其後又々御軟便御沢山御快通被_レ為_レ在候。

此間十五日に、御治定より御酒湯迄被_レ召上_二宜敷品書、章庵より差上候内、尚又相談増減。今日章庵、静海兩名にて書付差出、表使福田江相渡置申候。

夕七半時御診、永春院、玄瑠、章庵、静海、貫齋、秀貞、宗安（宗安事今日御機嫌伺罷出候に付、御序故拝診）、益御平和に奉_レ診候。御機嫌飛鳥井殿、藤崎殿。

今日四時前、御菜御前方中、加並麻仁七貼、解毒丸六分宛七貼御調合、玄貞立会。

御膳目 朝三拾五匁 御二度四拾匁 御三度四拾目
御小用五度 御大軟便二行被_レ為_レ在候。

夜四時過拝診、玄瑠、章庵、静海、貫齋、秀貞。益御順症、御平和に被_レ為_レ入候。御機嫌之旨、大崎殿、藤崎殿。

廿日 晴 暖 御目覚拝診、長春院、玄瑠、章庵、静海、貫齋、秀貞。益御平和に奉_レ診候。今朝御軟便一行御通じ被_レ為_レ在候。御機嫌大崎殿御局江申上候。

夕七半時御診、章庵、静海、卜仙、洞海、宗達、秀貞。益御機嫌之旨、大崎殿、藤崎殿江申上候。

夜四時拝診、章庵、静海、卜仙、洞海、秀貞。益御機嫌御順症之旨、萬里小路殿御局江申上候。

今日御膳目 朝四拾八匁 御二度三拾五匁 御三度四拾匁
御小用四度 御軟便兩度 昨夜七時頃少し地震にて御目覚、御大便御一行。

廿一日 晴 御目覚拝診、章庵、静海、卜仙、洞海、玄昌、秀貞。益御機嫌御順症之旨、萬里小路殿、梅溪殿江申上候。御菜御

前方七貼御調合、洞海立会

表御談示部屋迄罷出、御容体申上候。洞海相廻り、伊豆殿江申上候。

夕七半時拝診、章庵、静海、磐安、洪庵、秀貞。益御機嫌克御順症之旨、萬里小路御局江申上候。

今日御膳目 朝四拾五匁 御二度三拾五匁 御三度四拾匁
御小用四度 御大用貳度

表使川岡より章庵へ申聞候には、夜四時過御診之節は、態々御目覚申上候て為_レ御診候に付、御迷惑に被_レ思召候間、最早夜中之御診は無_レ之候ても宜敷御医師之方被_レ思候は、御診無_レ之候ても可_レ然哉、如何之問合に付、章庵より談示有_レ之、一同罷出、左様御迷惑之御様子も被_レ為_レ在候は、最早今夜中より拝診御見合にて宜敷、乍_レ去萬一夕刻拝診之節に御康有_レ之候得ば、尚又夜中御診相願可_二申上_一、左様思召被_レ下候様奉_レ願候旨、川岡へ申上候。且又御中年寄花園より煙草御用被_レ遊候ては如何問合に付、御咳大に候間遠に付、最早御用宜敷旨相答置申候。

廿二日 晴 六半時過拝診、長春院、章庵、静海、磐安、洪庵、宗達、秀貞。益御機嫌、御順症之旨、花園殿、藤崎殿江申上候、御中年寄花園申聞候には、昨夜宵之内、御左之御足御酸痛被_レ為_レ遊、九時過より御痛御緩、御快寝被_レ遊候由。且又夜四時頃御丸薬被_レ召上_一候ては、夜明頃御大便御催にて、御寝之御障に被_レ為_レ成候旨、矢張夜中も差上可_レ申哉相尋に付、左候は、翌朝御目覚後御用之方御宜敷旨、相答置申候。御丸薬御分量も少し減少可_二差上_一旨申上候。解毒丸薬分量四分五厘に致、差上候積、同

僚草庵へ談示置候。今朝御大便御通後拜見之処、茶褐色之軟便御相応に一行被_レ為_レ入候。八半時御丸薬御包五貼差上候、洪鹿立会。

夕御診、章庵、静海、澄庵、玄貞、秀貞、益御機嫌之旨、花園殿、梅溪殿へ申述候。今日は昨日より御気色被_レ為_レ入候旨、御局申聞候。全く時候暖気、逆上致し易き故と申上候。

今日御膳目 朝四拾匁 御二度四拾五匁 御三度四十匁
御小用四度 御大便一度

今日御機嫌、御順症之旨、御表へ磐安廻り、御用掛り伊豆殿へ申述候。

廿三日 晴 朝拝診、章庵、静海、澄庵、玄貞、秀貞、仙貞、益御機嫌、御順症之旨。飛鳥井殿御局江申述候。御表伊豆殿へ玄貞廻り、例之通申上候。

今日は御慰に御側にて被_レ下物有之候に付、明番之者も格別用事無_レ之者は、八時頃迄扨居候様に、表使福田被_レ申聞候。八時御前に被_レ召候に付、詰合候者、玄意、玄瑠、章庵、静海、澄庵、玄同、快庵、磐安、洞海、貫斎、玄貞、仙貞十三人罷出候。御嵩麦御弁当折二ツ、被_レ下置候。一統御嵩麦頂戴、其跡にて左之通御品物拝領。

御井、御紙入、煙草入、煙管、同筒

章庵、静海

但し長春院今夜若年寄稻葉兵部少輔殿御宅御用

イギリス皿、鼻紙入、煙管、煙草筒、煙草入

秀貞

羅紗鼻紙入、たもとおとし

玄意、玄瑠、章庵、貫斎、玄同、澄庵、快庵、磐安、洞海、玄貞、仙貞

右之通頂戴仕、御礼藤崎殿へ申上候。

七時過拝診、玄意、章庵、静海、玄昌、秀貞、益御機嫌之旨、飛鳥井殿、藤崎殿江申述候。

今日御膳目 朝五拾匁 御二度四拾匁 御三度五拾匁
御小用四度 御大用一度。

廿四日 晴 御目覚後拝診、玄意、章庵、静海、玄貞、甫周、道安、秀貞、伯元、益御機嫌、御順症之旨、大崎殿、梅溪殿江申述候。御表へ御容体申上、玄意廻り申候。

昨日午後御薬御前方七貼調合、玄貞立会。
今朝御膳目五拾匁。

明後廿六日は御酒湯に付、詰切は御免。左之通勤方申立候積。御治定 十五日より十二日之間

詰切 御匙 大膳亮章庵
詰切 御匙並 戸塚静海
詰切 御鐵科 吉田秀貞

引込・氣上

多紀養春院

兩人泊居代

漢家之者

日々老人ツ、御診

土生玄昌
桂川甫周
本康宗達

日々御機嫌伺、折々御診、此外雜科

右之通十五日朝勤方向書、章庵持參。頭取□□□□□□差出、御用掛伊豆殿にて相濟。

廿七日より左之通申立候積

廿七日 廿九日 泊居代 静海

廿八日 卅日 泊居代 章庵

来月朔日より御床扨迄、章庵、静海兩人にて唐人宛拝診之積。

御食禁之品書 御麻疹中御酒湯迄

一、ゆり 一、ふぎ 一、くわい 一、長いも 一、みつば

一、大根 一、かぶ 一、さつまいも 一、小かぶ 一、しそ

一、にんじん 一、ぜんまい 一、かんぴよう 一、うど 一、

きんぐ 一、こんぶ 一、ふ 一、ゆば 一、とうふ 一、大豆

一、小豆 一、やづなり 一、な 一、ぶどう 一、なし 一、

みかん 一、葛之粉 一、香之物 一、かし類 但御餅類など

一、酒しお 一、かつおぶし

右召上りて御よろしき品

御酒湯は廿六日に相当り候に付、其後被_レ召上候て宜敷品書、

尚又差上候積。

夕御診、永春院、章庵、静海、快庵、洪庵、秀貞。益御機嫌之

旨、大崎殿、瀧井殿江申述候。

今日御膳目朝五拾匁 御二度五拾五匁 御三度四拾匁。

御小用四度 御大用兩度。

廿五日 晴 御目覚拝診、章庵、静海、快庵、洪庵、宗達、秀

貞、益御機嫌之旨、萬里小路、藤崎殿江申述候。

静海表へ廻り、天璋院様御容体益御順症之旨、伊豆守殿江申述

候。

御藥御前方、御丸薬も同様御調合、洪庵立会。夕御診、永春院、玄瑤、章庵、静海、貫齋、秀貞、益御機嫌御順快之旨、大崎殿、梅溪殿へ申述候。

今日も被_レ下物有之、此間残之人数一同御前江罷出、御鯛麵並に御汁粉及御菓子等頂戴之上左之品々拝領。

英吉利皿、鼻紙入、たもとおとし

永春院

□□□□□□

卜仙、洪庵、玄昌、甫周、道安、宗達

今日御膳目 朝六拾匁 御二度五拾五匁 御三度四拾五匁

御大用二度 御小用三度

夜中御快寝、益御順快に奉_レ診候。

廿六日 陰 御目覚拝診、玄瑤、章庵、静海、貫齋、秀貞。益

御機嫌、御順快之旨、花園殿御局殿江申述候。

今日は御酒湯恐悦申上候。今日尚又於_レ御前_レ左之通拝領。

小重箱一、英吉利皿一、芭蕉布一

玄瑤

四組角益物一、芭蕉布一、吸物膳、椀五人前ツ、

章庵

同

静海

吸物膳、椀五人前ツ、英吉利皿一。芭蕉布一

貫齋

重箱一組、南京皿六、芭蕉布一

秀貞

今日表へ御機嫌、御順快之御容体申上、章庵相廻り申候。

夕御診、永春院、章庵、静海、玄同、卜仙、秀貞、益御機嫌、

御順快之旨、花園殿、藤崎殿へ申述候。

一統へ被下物今夕左之通

□□□□

永春院

玄同、卜仙

今日御酒湯に付、鯛麵御上り出来候得共、御上り不_レ被_レ為_レ在候に付、詰切三人へ被_レ下候旨。表使福田被_レ申聞候。御礼申上、三人共配分、宅江相廻し申候、今日は御酒湯御祝義、種々御料理之品頂戴仕候。

今日御膳目 朝五拾五匁 御二度四拾五匁 御三度四拾匁

御小用四度、御大用壹度。

御麻疹御酒湯後、被_レ召上_二御宜敷品々

一、よめな 一、海苔 一、こんぶ 一、きす 一、さより一、

ほうぼう 一、あいなめ 一、小鯛 一、小かれい

右之通に御座候。以上

十一月廿六日

大膳亮章庵

戸塚静海

右書付表使藤瀬へ相渡差出申候。

今日御酒湯済、明廿七日より勤方伺書、章庵より頭取與五郎衛

門へ差出。伊豆守へ近達相済。御書付左之通。

御酒湯後勤方奉伺候

宍人宛泊、朝夕拝診

居代

夕出御診

日々御診、見合泊、御鍼科

右之通御座候。以上

十一月廿六日

大膳亮章庵

(大膳亮章庵
戸塚静海

廿七日 晴 五時拝診、章庵、静海、玄同、卜仙、宗達、秀

貞。益御機嫌之旨、弥御順快之趣、大崎殿、梅溪殿江申述候。

御表四時御用召。昨日通詞に付、四時前一同御表江相廻り申

候。九時於_二土圭間_一、河内守出座、若年寄衆列座、天璋院様御麻

疹被_レ為_レ済、御祝義拜領物被_レ仰付_二候_一。左之通

天璋院様御酒湯に付、被_レ為_レ召、御匙をも相動候に付拜飲物被_レ

仰付_一

白銀三十枚ヅ、御時服二ツ、

御匙大膳亮章庵 御匙並戸塚静海

同断之節 詰切相動候ニ付、拜飲物被_レ仰付_一 白銀二十枚、時服

同断

吉田秀貞

同断之節 泊をも相動候に付、拜飲物被_レ仰付_一 時服二ツ、

玄意、三伯、玄璠、澄庵、貫斎、玄同、快庵、玄叔、碧

安、卜仙、洞海、洪庵、玄貞

同断之節、日々御容体相伺候ニ付、拜飲物被_レ仰付

銀十枚ヅ、

多紀養春院、多紀永春院、土生玄昌、桂川甫周、本康宗達

同断之節 折々御容体相伺候に付、拜飲物被_レ仰付

銀七枚ヅ、

村山自伯、小堀裕益、佐藤道安、石坂宗哲、渡辺雄伯、杉枝仙貞、杉山伯元

天璋院様より拜飲物有之候、左之通

銀二十枚ヅ、

御匙章庵 並静海

銀十五枚

御鍼科秀貞

銀七枚ヅ、

玄意、三伯、玄璠、澄庵、貫齋、玄洞、快庵、玄叔、磐安、卜仙、洞海、洪庵、玄貞

同五枚ヅ、

御掛り玄昌 甫周、宗達

同三枚ヅ、

自伯、祐益、道安、宗哲、雄伯、仙貞、伯元

新御殿御業調合、洪庵立会。御煎薬七貼、御丸薬五貼。

昨日御酒湯御祝義に付、奥にて鮮鯛壹折宛、詰切三人へ被_レ下_レ

候外に、四折惣医師へ被_レ下候。今日は別して御氣元御宜敷、御懇

体御快然に被_レ思召。

御膳目 御三度にて終日之御量百八拾匁。

御小用四度 御大便一度。

夜六時過表使北山達に付、御表へ相廻り候処、於_レ御休息_二御雜煮、御肴頂戴。五時過辰、川岡へ相達申候。今日詰切。章庵、秀貞退出。静海老人泊り。

公方様御麻疹被_レ為_レ濟、御床上御祝義に付、於_二御膳建_一河内守

被_レ仰渡_二候。頂戴之面々左之通。

白銀三拾枚

御匙竹内玄同

同拾五枚ヅ、

玄意、玄璠、章庵、静海、澄庵、貫齋、快庵、磐安、卜仙、洞海、洪庵、玄貞

同拾五枚ヅ、

宗哲、仙貞、秀貞

白縮緬二卷ヅ、

永春院、三伯、玄昌、自伯、宗達

右之通被_レ下置候。

公方様御麻疹被_レ為_レ濟御床被_レ為_レ扨候御祝儀ニ付奥於御廣敷

和宮様へ被_レ下物左之通

白銀三枚

御匙多紀永春院

紅白縮緬三卷ヅ、

多紀養春院 竹内玄同

白銀三枚ツ、

玄意、玄璠、章庵、静海、澄庵、貫齋、快庵、磐安、卜

仙、洞海、洪庵、玄貞、宗哲、仙貞、秀貞

同五百疋ツ、

三伯、玄叔、玄昌、自伯、三伯、玄叔、玄昌、自伯、甫

周、裕益、道安、宗達、雄伯、伯元

天璋院様御同断に付

紅白縮緬三卷ツ、

多紀養春院 竹内玄同

白銀三枚

多紀永春院

白銀壹枚ツ、

玄意、玄璠、章庵、静海、澄庵、貫齋、快庵、磐安、卜

仙、洞海、洪庵、玄貞、宗哲、仙貞、秀貞

金五百疋ツ、

三伯、玄叔、玄昌、自伯、甫周、祐益、道安、雄伯、宗

達、伯元

和宮様御麻疹御快然、一統骨折相勤候に付、御褒美於御広敷

左之通被下候

紅白縮緬三卷ツ、

多紀養春院

銀拾五枚ツ、並 御文庫之内

御匙多紀永春院 中山撰津守

銀五枚ツ、

玄意、玄璠、三伯、章庵、快庵、玄叔、磐安、卜仙、澄庵、宗哲、仙貞、宗貞

銀三枚ツ、

祐益、宗達、雄伯

同壹枚ツ、

静海、貫齋、玄同、洞海、洪庵、玄貞、玄昌、自伯、甫

周、道安、伯元

右之通今日引統被下物有之候に付、認置申候。

廿八日 晴 御診、三伯、章庵、静海、洪庵、宗達、秀貞、益

御機嫌御順快之旨、飛鳥殿、梅溪殿江申述候。今日静海退去、章庵居代り当泊、明廿九日は又々静海当番と相成。今日益御氣元御

宜敷、御上り物弥御進被_レ為_レ在候。

廿九日 陰 四時過御診、玄璠、章庵、静海、貫齋、快庵。益

御機嫌、御順快之旨、□□□□申述候。終つて御用無御座候。

夜に入、表使山田達に付、御表へ廻り候処、於御休息鯛麵、

御菓子、御肴等被_レ下置候。五ツ半戻り申候。

卅日 陰 四時過御診。

十二月朔日 四時過御診。

御膳目終日之御分量百六十匁

二日 四時過御診。

三日 四時過御診。

御膳目 百八十匁

四日 四時過御診。

御膳目 百八十匁

御膳目 百八十匁

五日

六日

七日

御膳目 □□□□□□□□

益御順快に被_レ為_レ入候に付、明後九日にて御見点より三十日に被_レ為_レ成_レ候間、表使福田へ相渡置候。左之通

三十日後御よろしき品々

- 一、ざといも 一、ねいも 一、しいたけ 一、氷こんにやく
 - 一、こんぶ 一、せり 一、ひじき 一、きくらげ 一、あらめ
 - 一、ゆず 一、きんかん 一、
 - 魚類 一、あまだい 一、石かれい 一、あかう 一、あんこう
 - 一、もうお 一、せいご 一、白うお 一、かさご 一、こい
 - 一、かな 一、はぜ 一、しじみ 一、いか 一、かき
- 五十日後御よろしき品々
- 一、そば 一、そうめん 一、けし 一、生が 一、わさび
 - 一、さんしょう 一、からかわ 一、梅干(團圓ぬき)
 - 魚類 一、あじ 一、わらさ 一、あわび 一、あかがい

右之通に御座候

月 日

大膳亮章庵
戸塚静海

八日 朝五時過、三伯、玄同兩名之手紙御広敷より遣し候に付
披見之処、昨七日夜半より 天璋院様寒熱、頭痛被_レ為_レ在_レ候に
付、早朝御広敷明番三伯、御表明番玄同江拜診被_レ仰付_レ候に付、
早々出勤。拜診可_レ有_レ之旨達_レに付、眞様出營拜診、三伯、章庵

静海三人。御脈微數、惡寒発熱、頭痛、全く御感冒之御容体に奉_レ
診候旨、花園殿御局殿へ申述、解肌発表飲奉_レ差上_レ候。尤昨夜御
更衣永く被_レ為_レ入候て、御寝後右之御症御発被_レ為_レ遊候。且又御
背中并御胸部に少し御発疹被_レ為_レ在_レ候。夕七時又々出營拜診。表
当番貫斎、御広敷当番玄叔一同拜診。益御機嫌、且又御熱発。御
発汗に被_レ為_レ在_レ、御難義に被_レ為_レ入候得共御汗は至極御宜敷旨、
瀧上殿御局殿へ申述候。薄暮退出。

九日 朝五時出營。章庵、静海、玄同拜診、御脈浮數、御頭重、
御食氣無_レ御座候。御全身微汗被_レ為_レ在_レ、御両脚御酸痛、倦怠被_レ
為_レ在_レ候。依_レ之□□發表□差上_レ候。尚又夕刻七時出營拜診之処、
御諸症御同様奉診候旨□□□□申述候。乍去全く御当分之義に
て、更に御案じ申上候程之事不_レ被_レ為_レ入趣申上候。御薬御前方。
尤御大便御秘結勝に付、解毒丸御分量増、七分ツ、毎日御兼用差
上置候。夜中矢張御発汗被_レ為_レ在_レ候由、翌朝拜診之節奉_レ伺候。

十日 五時過拜診。玄意、章庵、静海。御脈緩、御肌熱御寛
解、御頭痛も不_レ被_レ為_レ入、御氣分御宜敷旨御沙汰に候。益御機
嫌、御順快之趣、御年寄□□□□□□申述候。今日は最早御
薬御服用量御減少、四貼被_レ召上候て御宜敷旨、御中年寄川井殿へ
申述置候。最早今夕は御診不_レ罷出_レ旨。表使福田へ申述置退出仕
候。

十一日 四時過拜診、三伯、章庵、静海、卜仙、秀貞。御容体
益御宜敷、御脈緩和、御熱候更に不_レ被_レ為_レ入候。益御機嫌、御
順症之旨、花園殿、藤崎殿へ申述候。御頂背鈍痛之御氣味被_レ為_レ
入_レ候に付。秀貞へ御鍼治被_レ仰付_レ候。今日は御薬、兼て差上候

調胃解毒飲二貼、發表飲一貼被_レ召上、解毒丸は矢張御一貼被_レ召上候様、御中年寄花岡殿へ申述置候。御薬調胃解毒飲十貼御調合、章庵立会。九時退去。

十二日 益御機嫌克、御熱候更ニ不_レ被_レ爲_レ入、且御飲食之節少し温熱過候得ば、御汗直に被_レ爲_レ在候旨。御中年寄歌川申聞候に付、今日より發表飲は最早御休薬、解毒飲のみ被_レ召上候様申上置候。益御順快之旨、大崎殿、梅溪殿へ申述候。今日拝診、章庵、静海、快庵、玄叔、洪庵、秀貞也。

十三日 四時過拝診、章庵、静海、玄同、磐安、益御順快到奉_レ診候。御機嫌瀬川殿、瀧井殿へ申述候。御薬調合、前方中去布里兒加機那、立会玄同。

十四日 四時過章庵一同拝診。益御順快到奉_レ診候旨、瀬川殿御局へ申述候。御中年寄申聞候には、兎角御気分御引立不_レ被_レ爲_レ在。尤昨日御経事に被_レ爲_レ成候旨申聞候。今日より御薬加減差上可_レ申御答申置候。御薬調胃解毒飲布里兒去り、機那軽量に加_レ奉_レ差上候。玄同立会。

今日御膳目 □□□□

十五日 五半時出宮、表へ罷出、今日より桁入当番之儀、御膳番江届、直に御広敷へ廻り、四時過拝診、章庵、静海、永春院、三伯、玄瑠也。益御機嫌之旨、飛鳥井殿、藤崎殿江申述候。其_レ又々御表へ廻り、当直相勤居。

七時前頭取駿河守御書付相渡。諏訪因幡守被_レ相渡一候趣申聞候。御書付聞左之通。

右御書付、玄意、章庵、玄同三人にも同様出候由。夕刻章庵御請

にに罷出、申聞候には、天璋院様より兩人法印之義御願被_レ下候旨、表使川岡より致_レ承知候に付、御広敷召通御礼申上候趣。依_レ之自分事も直に御広敷江廻り、表使福田へ明日御用召之御礼申上、立戻り申候。

十六日 雨 四時前玄意、章庵、静海、玄同四人御泊御側衆御部屋へ罷出、今日御用召之一礼申上、四人相揃候義申述、其より頭取部屋江も罷出、揃候義申述置候。四半時於_レ御膳迄、松平豊前守殿法印被_レ仰付_レ旨被_レ仰渡候。若年寄衆待座(但し御小姓数

御礼式

- 一、御前御礼御用掛御取合にて申上候。
 - 一、御用掛御部屋へ罷出候。
 - 一、御側衆御部屋へ罷出候。
 - 一、御老中方、図書頭殿、若年寄衆、御用掛御側衆惣廻り候事。
- 其外御礼無_レ之何れも十徳

戸塚静海
右明日四時
御城へ可_レ被_レ出候事
十二月十五日

改名伺書左之通

書役清書

戸塚静海

静春院
(20)
杏仙院

右之内相改申度奉_レ伺候
以上

十二月
奥医師 戸塚静海

右之通以_レ頭取一候候処、静春院之上に御点付下り候

人、御小納戸頭取喜一、与五郎衛門(4)諸大夫被_レ仰付_二候_一。頭取駿河直に御前御礼有_レ之候間、御次に罷出候様被_レ申聞、暫く御次に詰居、無_レ程坪内伊豆守御取合、御前御礼相濟。御礼式頭取部屋にて受取。別紙之通。改名伺書頭取部屋書役清書差出。是又別紙之通。

静春院御点付伺濟、直に改名。

八時御広敷江廻り拝診、弘玄院、静春院、玄叔、益御機嫌之旨、瀬川殿、瀧井殿へ申述候。且又法印被_レ仰付_二候御礼兩人へ申上候。八時過広敷に於而新御殿表使福田江御礼申上候。其より退出、御老若回勤、御用掛り村松出羽守殿、佐野伊豫守殿及長春院、永春院、養春院三人江廻り、薄暮には帰宅。

十七日 晴 四時前出宮。四時過拝診、弘玄院、静春院、永春院、益御機嫌之旨、□□□□□□申述候。御薬御調合、立会洞海。九時過退出。平川方出、伊豆守殿始、惣御側衆不_レ殘廻勤、薄暮帰宅。

十八日 晴 四時、四半前拝診。兩人之外三伯、磐安、洪庵。益御機嫌之旨、且弥御順快、更に何之御藤も不_レ奉_レ診候に付、御髮御搔揚御宜敷旨、御中年寄川井江申述候。御機嫌飛鳥井殿、藤崎殿江申上候。御丸葉解毒丸七貼御調合、立会洪庵。九時過退出。津山候、膳所本多黒田侯立寄夜ニ入帰宅。

十九日 晴 四時出宮。拝診、弘玄院、静春院、三伯、澄庵、玄昌、甫周、益御機嫌之旨、花園殿、藤崎殿へ申述候。昨日は御髮御固まり、大抵御解被_レ為_レ在候に付、昨夜は別して御頭も御輕く御快寝之由、御中年寄花岡申聞候。九時退出。赤坂中納言殿拜

診罷出、帰路瑤光翁診察。近処敷軒立寄帰宅。

廿日 晴□暖、四時出宮、無_レ程拝診、弘玄院、静春院、玄瑠、玄叔、秀貞。益御機嫌之旨、飛鳥殿御局江申述候。御薬御前方十貼御調合、玄叔立会。明後廿二日より排毒健胃丸差上候積、其方左之通。

排毒健胃丸方

金硫黄 一來五分 龍腦 一來 青橙皮末 二來五分 健質 亜那越幾
斯五來 甘草末 二來五分 右五葉糊丸 以_レ金箔 為_レ衣六十日
分
但し百廿貼と為し、朝暮一貼宛御服用之積。

廿一日 晴 四時過拝診、長春院、弘玄院、静春院、玄叔、卜仙、益御機嫌、弥御順快到_レ奉_レ診候旨、瀧山殿御局へ申述候。御中年寄花岡申聞候には、天璋院様廿七日頃御床払被_レ遊度被_レ思召_二候_一。弥被_レ遊候て宜敷哉、御尋被_レ遊候旨に付、最早何之御藤も不_レ奉_レ伺、御宜敷旨申述候。

梅之木一本ツ、弘玄院、静春院頂戴被_レ仰付_二候_一。其後梅溪殿始より鮮鯛一折被_レ相贈_二候_一。

廿二日 晴 四時出宮。直に御広敷へ罷出拝診、弘玄院、静春院、□□□□□□。益御機嫌之旨、□□□□□□申述候。

廿三日 晴 四時拝診、弘玄院、静春院、□□□□□□。益御機嫌之旨、□□□□□□。

先刻御腰湯被_レ遊候処、何之御障も不_レ被_レ為_レ在、却て御さつぱり被_レ遊候。御氣分御宜敷被_レ為_レ入候旨、御中年寄花岡申聞候。左候得ば、弥廿七日は御床払御出来可_レ被_レ遊奉_レ存候旨、猶又申

上候。御薬調合、立会□□。

廿四日 晴 四時、過出宮拝診、弘玄院、静春院、玄璠、澄庵。

益御機嫌之旨、大崎殿、瀧井殿へ申述候。御中年寄川井被ニ申聞一候咳之御粉薬被下ニ相成候間、御調合差上候様達に付、鎮咳散、即アラビヤゴム六分宛廿貼調合差出申候。被下に付立会無之。

廿五日 晴 四時前出宮、無程拝診、弘玄院、静春院、玄叔、

卜仙、洪庵。益御機嫌之旨、飛鳥井殿御局江申述候。

廿六日 晴 四時前出宮、無程拝診、弘玄院、静春院。

戸塚静春院

板倉丹波守家来

鈴木誠軒

右鈴木誠軒儀由緒も有之、弟子之儀に有之候間、芝源助町私拝領屋敷之内、八十四坪当分之間貸置申候。依レ之御届申上候。

奥医師

戸塚静春

二月

右之通玄春⁽⁵⁾二月地借誠軒之御届書差出

天璋院様御麻疹諸留帳 附屬

〔註解〕

- (1) 十一月九日、公方御酒湯祝義。酒湯については(13)で後述 (2) お湯之下 釜底の焦め目のついた飯を煮返して粥状に柔らかくしたもの (3) 御同篇 未改 (4) 嘈雜 さわざわする。雑音 (5) 痞鞭 ヒベン 胸の支え (7) お浅さ物 未改 (8) 綿子 ワタゴ 真綿を布で包まず縫って形を整えて着るもの、現在の真錦羽織下に近い (9) 尺の重 一辺が一尺の重箱 (10) 伊東長春院御匙御免、差扣仰付の通知、長春院没落の第一歩 (11) たもとおとし、袂落し 紐の両端に小袋をつけ、その中に煙草入、汗拭き、匂袋など入れる (12) 引込、氣上 ひきこみ、のぼせ (13) 酒湯 さささゆ 江戸時代に疱瘡等発疹が生ずる病の直ったとき、浴びせる酒を混ぜた湯、またはその湯に浴する風習 (14) やつなり 未改 (15) 酒しお 吸物、煮魚の味付のために加える酒 煮酒 (16) 四ツ折未改 (17) 中山撰津守 和宮が降嫁の際京都から伴って来た漢方医 (18) もうお 海藻の茂る沿岸に住む魚の総称 めばる、ペラ、かさい、はまち等 (19) からかわ 辛皮 山椒の若い茎を水に漬けて置き、苦味を除いた一種の調味料 (20) 杏仙院 後年家茂没後、和宮が静寛院宮を名乗ったとき、静海はこれに遠慮して杏仙院と称したことがある。(21) 伊東長春院はこれより先、十二月十二日に差扣えを免ぜられて、法印に復していたので回動したのである。